



砂浜やイノーは

琉球列島のサンゴ礁は、約1万年前頃から長い年月をかけて現在の形に発達してきました。そのサンゴ礁が変化に富んだ海岸の地形を形成し、沖縄の海の象徴ともいえる白い砂浜をはじめとした、様々な景観を織りなしているのです。

サンゴからの贈り物

◆岸から海へ、多彩な色のグラデーション

サンゴ礁は、サンゴを中心とした生物が長い年月をかけて作り上げる地形のことです。琉球列島の島々は地質的にみると、石垣島や伊平屋島など堆積岩が露出する標高の高い「高島」、多良間島や久高島などのサンゴ礁起源の石灰岩が全面を覆い標高の低い「低島」とに分けられます。サンゴ礁はこれらの島々を縁取るように発達しています。

このような島の周囲に発達するサンゴ礁を裾礁(きょしょう)といい、琉球列島でみられるサンゴ礁の殆どがこのタイプです。裾礁は、陸から海に潮間帯(ちようかんたい)、礁池(しょうち)、礁嶺(しょうれい)、礁斜面(しょうしゃめん)といった地形が連続しており、それぞれの環境に適した様々な生き物が集まっています。沖縄の言葉でイノ

ーと呼ばれる礁池は、漁場などとして古くから地元の人々に利用されてきました。島を白く縁取る、波で洗われたサンゴのかけらや貝殻、星砂でできた砂浜も、憩いの場や古くは船着場として人々の生活に欠かせない、身近で大切なサンゴ礁の一部なのです。



水納島も低島で元はサンゴ礁からできています。

<サンゴ礁の種類>



◆裾礁(きょしょう)

島を縁取るように海岸に接して発達しており、浅い礁池をもつことが多い。琉球列島にあるサンゴ礁の大部分がこのタイプ。(宮古島と橋でつながる池間島)



◆離礁(りしょう)

陸地から離れて深い海底から立ち上がるサンゴ礁を離礁といいます。(池間島北にひろがる八重干瀬)

※写真(裾礁と離礁)の中、藍色の海に水色やエメラルドグリーンに浮かび上って見える浅瀬の部分がサンゴ礁です。

◆堡礁(ほしょう)と環礁(かんしょう)

大陸との間に深さ数十メートルの礁湖とよばれる海を隔て、突き合いに発達したサンゴ礁は堡礁と言います。なんといっても、オーストラリアのグレートバリアリーフがその代表です。島の周りのサンゴ礁が、島が沈んだ後も成長を続け、環状になったサンゴ礁を環礁といい、その内側は数十メートルにも達する深い礁湖となっています。マーシャル諸島のビキニ環礁が有名です。南・北大東島は、環礁が隆起した島です。

<サンゴ礁の地形>



礁池(しょうち)

浜と外海との間に広がっている大きな潮だまりのような場所を礁池と呼びます。外海と比べ水温の変化が激しいうえ、堆積物や濁りも多く、サンゴにとって厳しい環境ですが、ハマサンゴやコモンサンゴの仲間などが生息しています。



礁斜面(しょうしゃめん)

沖に向かって急な角度で深く落ち込むダイナミックな地形でサンゴ礁が成長する場所でもあります。礁斜面はサンゴの生息場所の中心でもあります。

(画:西平守孝、日本のサンゴ礁、環境省)